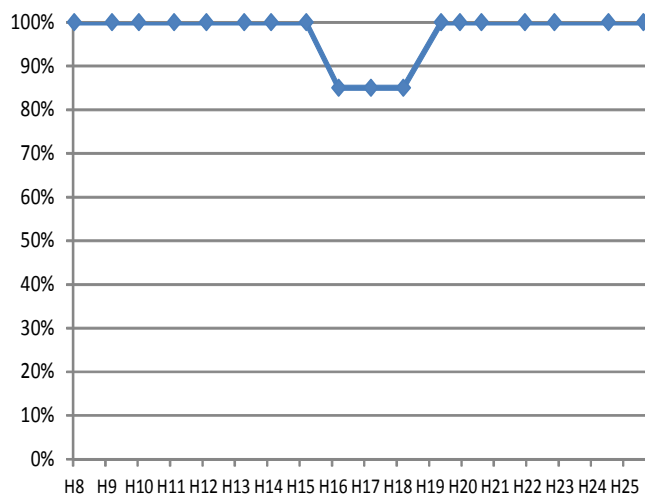


樹種名	チャンチンモドキ（別名：カナメノキ）		
科 目	ウルシ科		
学 名	<i>Choerospondias axillaris</i>		
分 布	北部九州以南、国外では中国南部、東南アジア北部、ヒマラヤに分布する。		
樹木特性	センダン科のチャンチンに似ていることからチャンチンモドキの名がある。チャンチンモドキの花は赤褐色、チャンチンの花は白色ということで容易に判別できる。		
用 途	庭園木、公園樹、街路樹の鑑賞等材は建築、楽器、器具材として利用。	  	
植栽本数/面積 （植栽密度）	5 本／0.002ha (3,000 本／ha)		
特 徴	【樹形】 落葉高木であり、樹高は 15~25m になる。 樹皮は赤褐色で縦に細く裂け、薄く剥がれる。 雌雄別株で 5 月頃に暗紫色～赤褐色の花を咲かせる。 葉は互生で奇数羽状複葉。小葉は 3~6 対あり、長さは 6~9 cmの歪んだ披針型で先端は細長くとがり、裏面は淡緑白色。雌雄別株であり、5 月に暗紫褐色～赤褐色の小さな花が開く。 核果は 3 cmほどのほぼ球形、11 月に黄色から橙色に熟す。 冬芽は、赤褐色の芽鱗で覆われ、先端は尖る。維管束痕は小さな白い点が大きく 3 カ所に別れて見られる。		
試験地での様子	ポット苗により 5 本を植栽し、その後 1 本が枯死したため平成 19 年度に 2 本補植し、合計 6 本が現存している。		
被 害	特になし		

チャンチンモドキ 現存率



【現存率】

平成 26 年に毎木調査をした結果、6 本が現存している。



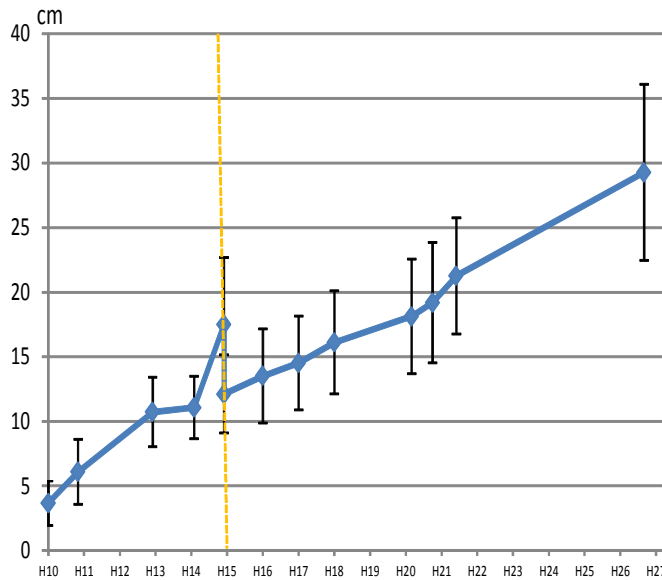
【根元・胸高直径】

平成 26 年に毎木調査をした結果、平均胸高直径は 29.28 cm であり、順調に成長している。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



チャンチンモドキ 根元・胸高直径



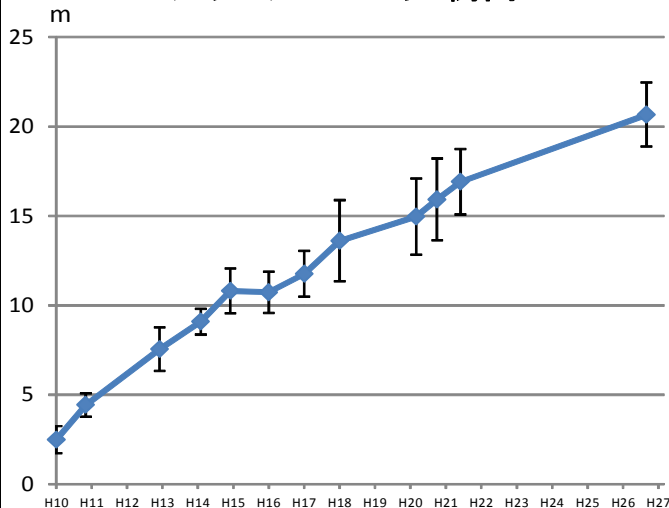
【樹 高】

平成 26 年に毎木調査をした結果、樹高は 20.67m であり、上長成長スピードは早く、順調に成長している。

《プチ情報》

チャンチンモドキには「モドキ」が付記されており、本物のチャンチンの木がある。チャンチンモドキとチャンチンの 2 つの木はともに、葉の付き方が羽状複葉・互生で、どちらも結構な大木に育つ。しかし、チャンチンが白い花を付けるのに対して、チャンチンモドキは真っ赤であるから、花期にははっきりと区別できる。また花期も、チャンチンが 6 月であるのに、モドキは 5 月である。さらに、チャンチンモドキはウメに似た大きな実をボトボトとおとすが、チャンチンは蒴果をつける。

チャンチンモドキ 樹高



《参考》

チャンチン：センダン科のチャンチンは、中国原産の高さ 30m にもなる落葉高木で、香りのある新芽が赤紅色であることに、今までにはない印象深いものを感じる。渡来したのは江戸時代初期に來日した明の高僧が、宇治市の万福寺に植えたのが初めてといわれている。チャンチンは中国名を「香椿・チャンチュン」といい、呼び名が転訛してチャンチンとなったものである。センダン科の仲間であるチャンチンは、通直な幹と羽状複葉、6~7 月ごろ枝先に 20 cm 前後の大きな円錐花序を出し、小さな白い花を多数をつける。秋に木質の蒴果が熟し、裂開して翼のある種子を撒布する。材質は固く光沢が美しく、建築材、家具、器具材に用いられる。チャンチンの香り高い新芽は、宇治市の万福寺の普茶料理の一品として用いられる。